

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 **新**木曾川中流域観光振興プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 政策企画係 電話番号：058-272-1111 (内 3059)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,660 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,660	2,500	0	0	0	0	0	0	3,160
決定額	5,660	2,500	0	0	0	0	0	0	3,160

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本県には、長良川、木曾川をはじめとする清流があまねく流れており、これまで、「清流の国ぎふ」をキーワードに観光振興を進めてきた。

とりわけ、長良川については「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたことを契機に、上・中流域の自治体とともに、当該地域を周遊・滞在させる観光地域づくりに取り組んでいる。

一方、木曾川流域には、河川環境楽園やぎふ清流里山公園、花フェスタ記念公園、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館などの集客力の高い観光資源に加え、中山道や地歌舞伎、山城をはじめとする魅力的な観光資源が豊富にあるものの、長良川に比べ流域を周遊・滞在させるための取組みが乏しい。

今後、木曾川流域の周遊・滞在観光を促進するためには、これらの資源を巡る新たな旅のスタイルを構築・発信することが必要である。

(2) 事業内容

木曾川流域の自治体や観光関係者とともに、流域に存在する魅力的な観光資源を活かした周遊・滞在型観光の推進に取り組む。

(3) 県負担・補助率の考え方

本事業は県内観光産業の振興を目的とする事業であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	540	職員旅費
消耗品費	60	事務費
役務費	60	事務費
委託料	5,000	周遊マップ作成や流域のPR等
合計	5,660	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「『清流の国ぎふ』創成総合戦略」

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

④観光産業の基幹産業化

(2) 後年度の財政負担

短期的に解決できる問題ではなく、一定期間、継続して行う必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 リニア中央新幹線の開業を見据え、木曽川流域における周遊・滞在型観光を定着させ、当該エリアにおける滞在時間の増加と観光消費額の拡大を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
観光消費額	億円 (H-)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1)	3,300億円 (R7)	88.9%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1)	4,900万人 (R7)	98.0%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

（前年度の成果）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	観光産業の基幹産業化を図る上で、新たな広域観光ルートを創出することは必要であり、県の関与は妥当である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

木曾川流域の観光資源の周遊・滞在型観光を促進するために、コンテンツ造成やプロモーションが必要である。
--

(次年度の方向性)

木曾川流域の周遊観光に向けた具体的な取組みについて、関係者と協議を進めるとともに、プロモーションを展開する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】